

## <歯科とオステオパシー> 国際セミナー会長推薦文

徒手療法を行っている方で『歯』という組織に興味を持っておられる方は非常に稀であると思います。その理由として大多数の臨床家は歯というのは食物を噛み砕くのに必要な組織ではありますが、身体の組織全体に影響を出すということを御存知でない方が大多数であるからではないでしょうか？

日本においては私が「膜の概念」というセミナーを沖縄～北海道まで何年間にも渡り行脚して、膜という結合組織が全ての組織・器官を繋いでいるということを実演を交えながら教え広めて来ましたが、それまでは、日本で施されているほとんどの徒手療法において一部を除き膜の知識や概念すら無かったのが実状であります。

そして、やっと各方面の分野において、膜の知識が身につけ出したことは結構なことなのですが、残念なことに歯についてはほとんどの臨床家が興味すら示されていないのは、ひょっとすると歯には膜が無いと考えておられるのかもしれませんがね。しかしながら、歯根部には歯根膜という結合組織があり、それは下顎骨の骨膜～顎関節～側頭骨の骨膜及び脳へと波及し、そして、その力は体幹を含めた全身に影響を及ぼすこととなります。こういうことを知っていれば歯列矯正を行うことで、全員ではないにしても身体に不具合を生じる方がおられることも理解できるのではないのでしょうか。

歯の問題を私は過去のセミナーに於いて、これまでに何回も生徒の前でデモンストレーションにより見せしめてきています。何が言いたいかという点、『たった一本の歯』と思われるかも知れませんが『この一本の歯』が・・・ということが少なくないということです。もちろん個々の臨床家が自らの治療の守備範囲をどこまでにするかということにもよりますが、歯が全身に繋がりをもっているということを知ること、学ぶことは全くもってプラスになることはあっても、決して無駄になることは無いと断言できます。

例えば、様々な徒手療法を受けて全く症状の変化すら起きなかった腰痛や肩関節の痛み、あるいは腰の痛みなどが、私が診た上で施したこの一本の歯の治療で痛みが消失した・・・といっても多くの臨床家はそんな馬鹿なことがあるはずが無いと思われるでしょう。しかし歯の乱れが多くなってきている近年そして最近、原因不明の歯の痛みを訴える患者さんが増えてきている現状の問題として向き合うとすればどうですか？そして、それは現実にあります。

まわりの臨床家が興味を持たない所に興味を持ち、出来ない治療が出来るようになれば皆さんの臨床家としての価値は高まり皆さんの未来が大きく変わると思いませんか？

たった一本の歯が、しかしこの一本の歯の治療で患者さんの未来、そして臨床家の皆さんの未来が変わるかもしれません。私は Osteopathy を学ぶことで自分の未来を変えられることが出来ました。その中にはたった一本の歯も含まれます。

今年の7月5日（金）、6日（土）、7日（日）の3日間でフランスよりコリン・マルバル D.O.を招待し「歯科とオステオパシー」セミナーを開催します。頰椎と歯列構造との関係、噛み合わせと姿勢の関連、口腔歯科分野の5つの機能（呼吸・嚥下・発声・咬合・姿勢）・・・赤ちゃんの舌と授乳・歯に宿る感情・歯と臓器の関係について講義をしてもらう予定です。

マルバル D.O.の来日は2回目となりますが、前回（2日間）よりもパワーアップした内容（3日間）になっております。是非、楽しみにしてください。